

地域包括ケアネットワーク No.61

玉島医師会の地域包括ケアへの関わり

玉島医師会 地域福祉担当理事 進藤 真

昨年度、岡山県医療介護連携体制整備事業における郡市等医師会実施事業として、玉島医師会で開催している『玉島地区ケアマネ交流会』が承認されました。『ケアマネ交流会』は玉島・船穂地域の医師、歯科医師、薬剤師とケアマネージャーの連携を進めるために、2011年から毎年継続開催してきました。“顔の見える連携”“地域の医療・介護の情報共有”を目的に毎回、玉島医師会、玉島歯科医師会、岡山県薬剤師会玉島支部と地域包括支援センター、居宅支援事業所のケアマネージャーが参加しています。交流会では医療介護をテーマとした講演と医師会、歯科医師会、薬剤師会からそれぞれの事業内容の紹介や参加会員の自己紹介とグループワーク等を行っています。グループワークでは医師、歯科医師が各々のグループに分かれてケアマネージャーと医療介護の連携について「お互いに聞きたいこと、こうしたらいいなと思っていること」などの意見交換をしています。毎回、100名前後の参加者があり、継続開催することで連携を深めています。

当医師会では“顔の見える連携”として『玉島地区訪問看護の集い』も毎年開催してきました。内容は医師会、歯科医師会員の講演と各訪問看護ステーションの紹介などで、これまで『AEDを使用した救命症例』『眼科の訪問診療』『医療介護連携シートの活用』『歯科の訪問診療』『摂食嚥下障害への対応』など医師会、歯科医師会の取り組みの紹介や在宅の現場で生かせる内容の講演を行ってきました。ステーションからは症例報告や活動内容の紹介を事業所毎で1カ所ずつ行ってきました。玉島・船穂・真備地域の訪問看護ステーションのスタッフが参加しており、2019年2月の集いでは『西日本豪雨災害を体験して』の演題で真備の「訪問看護ステーションあんど」から発災時から現在に至る経過の報告があり、災害時の行動と課題、災害対策の見直しに加え、利用者の方の災害死やスタッフの心のケアなど災害対策に関わる医療者への教訓を共有できた集いでした。真備の豪雨災害の際には普段からの連絡連携もあり、玉島の各訪問看護ステーション間では発災時から物品や人員の支援を行ってきました。

地域包括ケアへの医師会の関わりとして『玉島・船穂・真備地区地域ケア会議』は医師会、歯科医師会、薬剤師会と自治体、地域の各種団体が参加して継続開催しています。詳細は私が投稿した岡山県医師会報1500号【会員の声】を参照ください。

地域ケア会議に加えて、玉島地区では地域のヘルスプロモーションを進める会として健康くらしき21・Ⅱ推進会議を継続開催しています。倉敷市健康増進計画では、健康課題解決に向けての取り組みを「運動」「栄養」「休養」「歯の健康」「たばこ・アルコール」「健康管理分野」の6分野にまとめました。運動、栄養、歯の健康などはフレイル対策としても重要な分野です。この会議も地域の各種団体や住民が参加しており医師会、歯科医師会、薬剤師会、教員、保健師、民生委員、栄養改善委員、愛育委員、マスメディア（地域のケーブルテレビ局）、商工会、スポーツジム事業者などのメンバーで構成されています。2016年度は守屋直人玉島医師会長や仁科晃理事の参加した健康に関するシリーズ番組を製作しました。2017年からは私が担当して参加。健康サミットとして市民交流センターで市民公開での健康づくりイベントを毎年開催しています。また、昨年は市民参加で各自の健康づくりに関するテーマを設定した教室も半年間かけて開催しました。

地域包括ケアは認知症、在宅など医療・介護だけでなく、住民参加、保健、福祉の関わりも重要です。災害への対応を含めて“地域まるごと健康づくり”を進めるために医師が地域へ出かけること、地域の様々な団体と連絡連携を取ることがますます重要になってきています。